

登録有形文化財「藤岡家住宅」主催・記紀・万葉ふるさとフェスティバル

ステージ 2nd. 松岡徳郎フルート & オカリナコンサート

～ 記紀・万葉の心を奏でる ～

天平時代の栄華を伝える

栄山寺八角円堂内陣装飾

(重要文化財)

八角円堂

(国宝) 下

神功皇后の伝承が残る

波宝神社

「古事記」

「日本書紀」

阿陀比売神社

奈良時代の遺構宇智川

磨崖碑

神武天皇の伝承が残る

天磐船石 (写真下)

松岡徳郎

平成 27 年 9 月 19 日 (土) 午後 1 時～2 時半

入館料のみ (高校生以上 300 円・小中学生 200 円) で鑑賞できます
お食事ご希望の方は「松花堂」弁当をお取り寄せします (別途 1400 円)
お食事の場合はご予約下さい。午前 11 時半～お食事

午後 1 時～「記紀・万葉」と五條について 学芸員・館長 川村優理
朗読 宮内厚子

午後 1 時半～2 時半 松岡徳郎コンサート

登録有形文化財「藤岡家住宅」うちの館 (やかた)

〒637・0016 奈良県五條市近内町 526・☎FAX0747 22 4013 | info@uchinono-yakata.com

午前 9 時～午後 4 時・月曜休館・月曜が祝日の時は開館して翌日休館

天武天皇 10 年（681）、天武天皇が諸家の記した独自の記録を整理し、歴史書を編纂することを命じました。その後「古事記」は、和銅5年（712）に完成し、「日本書紀」は、養老4年（720）に完成します。この時期「宇智または宇知、内野」と呼ばれていた「五條」はどのような土地であったのか。「記紀・万葉」の記述を通して土地の風景を再構築してみると、天武天皇とその孫、文武天皇、藤原不比等の長男藤原武智麻呂を祖とする藤原南家の姿が見えてきます。文武天皇の子である聖武天皇の第一皇女井上内親王は、五條を守る「氏神さん」と呼ばれる御霊信仰の主人公となり、後に五條の23～21の神社に分祀されることになりました。

阿陀」の地名は『古事記』『日本書紀』『万葉集』にも見え、式内社（『延喜式神名帳』に記載された神社）の阿陀比売神社（あだひめじんじゃ）があります。『古事記』には、神武天皇は、日向から瀬戸内を通過し、紀伊半島を迂回し、熊野からこの阿陀に入ってきたとあります。『日本書紀』には、まず宇陀に入った後、^{いさかきへい}軽兵（少人数）の兵士たちを伴って、舟でこの土地にこられたと記されています。『古事記』に阿陀の鵜飼の記述があり、『日本書紀』にも阿陀の鵜飼が記され、この時期には、人々の営みが、吉野川沿いに根付いていたことが分かります。

西暦	年号	五條（宇智・宇知・内野）のできごと
697	文武 1	文武天皇（683～707）（ ^{かるのみこ} 軽皇子または ^{かるのみこ} 珂瑠皇子）即位。文武天皇は天武天皇の孫。即位はするが 15 歳という異例の若さであったため、大宝 2 年まで祖母（持統天皇）の後見の下にある。妻は藤原不比等の長女・藤原宮子（683?～754）。母は後の元明天皇。聖武天皇の父。
698	文武 2	文武天皇 ^{いでま} 宇智郡に車駕幸す。（大 ^{やまと} 倭の国 吉野 宇知二郡の百姓を服す「続日本記」）
701	大宝 1	大宝律令ができる。首皇子（聖武天皇）生まれる。天武天皇（譲位後）吉野へ行幸。 天武天皇在位中 31 回。通算 33 回吉野へ行幸している。
703	大宝 3	文武天皇遊獵のために内野に行幸
704	大宝 4	藤原豊成生まれる（～766）。豊成は不比等の孫。藤原南家の祖武智麻呂の長男。父武智麻呂が五條に建立した栄山寺をその活動の基盤とした。豊成は藤原仲麻呂の兄。中将姫の父。参議・右大臣に上る
706	大宝 6	藤原仲麻呂生まれる（～764）
710	和銅 3	平城京遷都
712	和銅 5	「古事記」完成。「古事記」に阿陀（現在五條市吉野川流域）の鵜飼が記される
719	養老 3	藤原武智麻呂 栄山寺建立（五條市小山）。このとき、武智麻呂 39 歳。豊成 15 歳。仲麻呂 13 歳。大伴家持 1 歳（718～785）。井上内親王 2 歳（718～775）
720	養老 4	「日本書紀」完成。藤原不比等没す（62 歳）。「日本書紀」に阿陀の鵜飼が記される
721	養老 5	聖武天皇の第 1 皇女 井上内親王 齋宮となる（5 歳）
723	養老 6	山代忌寸真作の妻 秋庭亡くなる。（山代忌寸真作の墓誌が五條市阿陀で発見されている）
737	天平 9	藤原武智麻呂没す。天然痘の流行のため、藤原不比等の 4 子没す。武智麻呂の墓は当初は奈良市の左保にあったが、栄山寺裏に改葬され、阿陀墓と呼ばれている。武智麻呂の菩提を弔うため、仲麻呂は栄山寺に内に八角堂建立（国宝・760～763 の期間に完成と推定）



NORIO MATSUOKA FLUTE & OCARINA CONCERT
Loving the heart of ancient-time books KI・KI・MMANYO